今日の学習のポイント（9/25）

**ドミニク・アングル（1780-1867）フランス**

　フランス　　新古典　　主義の巨匠。極めて高度な線描を基軸とした形態描写による、厳格で簡潔な絵画を制作し、19世紀前半期のフランス絵画最大の権威者となる。ジャック＝ルイ・ダヴィッドに学び、生涯にわたり　理想　美を追求した。

**ウジェーヌ・ドラクロワ（1798 - 1863） フランス**

フランス　　ロマン　　主義最大の巨匠。色彩の魔術師と呼ばれたほど色彩表現に優れ、輝くような光と色彩の調和による対象表現や、荒々しく劇的でありながら内面的心象を感じさせる独自の場面展開で、文学的主題、歴史画、宗教画、肖像画などあらゆるジャンルの作品を制作。特に画家が見出した影の中に潜む色彩はルノワールなど印象派を始めとした後世の画家たちに多大な影響を与えた。

**ジャン＝フランソワ・ミレー（1814 - 1875）フランス**

19世紀に活躍した　写実　主義の農民画家。1849年にパリ郊外にあるバルビゾン村へ移住しバルビゾン派となる。『種をまく人』など農民を主人公にした絵画を描き、1867年のパリ万国博覧会で名声を得た。晩年には印象派に近いパステルや水彩画も制作した。

**ギュスターヴ・クールベ（1819 - 1877）フランス**

フランスを代表する　　写実　　主義の画家。「私は天使を描かない、なぜならそれは

　　見えない　　からだ。」という彼の言葉が示すように、当時の画壇の潮流であった絵画の理想化を拒否し、目に見えたものの本質をとらえて美化せずにキャンバスに表わそうとした。題材も当時サロンで権威の高かった古典絵画の模倣的な歴史画ではなく、低俗と見なされていた画題である庶民や労働者の姿などの日常的な光景を描いた。

**ウィリアム・ターナー（1775 - 1851）イギリス**

英国最大の風景画家のひとりであり、イギリス　ロマン主義　を代表する巨匠。大気感を感じさせる独特な風景表現と、光を波長順に分解したスペクトル的な色彩理論を用いて数多くの油彩画・水彩画・版画用の下絵を制作。色彩が溶け合うような独自な風景表現はクロード・モネなど　印象派　　の画家やその様式の形成に多大な影響を与えた。

**カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ（1774 - 1840）**

19世紀ドイツ　ロマン　派の代表的画家。密接な自然観察による細密な描写とともに、冷たく厳しい色、澄んだ光、鋭い輪郭といった特徴により、広大な風景と光に精神性や象徴性を与え、もの悲しく、孤独で静寂な空間を感じさせる画面を構成し、自然に対する恐れや畏敬の念、人間の非力さなどを表現している。

**ロマン主義**

　18世紀末から19世紀前半にかけてヨーロッパ各地で展開された文学･芸術･思想上の自由解放を信奉する革新的思潮。合理主義に対して個々人の感性と想像力の優越を主張し、古典主義の表現形式の規制を打破して自我の自由な表現を追求しようとした。既成の社会体制への反抗・自然への逃避、情熱的かつ絶望的な恋愛と自殺への志向、不合理・神秘的なものへの憧れ等を主題とし、鋭敏な感受性の主体としての自我を重視するきわめて　主観　的な作品が生み出された。

フランス絵画においてはアングルらの　　新古典　　主義に対立する動きとして生まれ、均整のとれた美を追求したそれに対し、ロマン主義は「　個性　の美」を追求し、　動　的な構図・　対比　　的な色彩・個性や想像力の重視といった特徴がある。

**写実主義**

「レアリスム」ともいう（英語では「リアリズム」）。一般に、現実をありのままに模写・再現しようとする芸術上の傾向。特に、一九世紀中葉ヨーロッパに興った芸術思潮をいう。現実を尊重し、主観による改変・装飾を排して　客観　　的に観察し、その個性的特質をありのままに描き出す傾向または様式。労働者や農民など下層階級の人々の生活や日常を世界の現実と捉え、忠実に表現しているのも本主義の大きな特徴である。ギュスターヴ・クールベが1855年に開催されたパリ万国博覧会の会場の隣で、「レアリスム館」を設置し自身の個展を開催したことに由来する。ジャン＝フランソワ・ミレーやコローなども写実主義の画家とされる。